

## 「秋の金沢紀行 (1)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

今日、金沢大学附属小学校の公開研究会に参加した。金大(きんだい)の附属学校は、金沢校外の広い敷地にあり、校舎も広々として美しい。子どもたちも、非常に素直で礼儀正しく、大変いい印象を受けた。私は「食」に関する授業のほか、「5年・ふりこ」「4年・ものの温度と体積」の授業を参観した。最近の理科の研究授業は、観察・実験の場面がまったくないものも見受けられるが、金大附小は、そんなことはなかった。45分の中に、一定時間の実験場面が保障され、しっかりとした理科の授業だったので、嬉しくなった。理科の先生方のパワーと提案力、子どもたちの探究力を感じる、大変勉強になる研究授業だった。

附属校がある金沢市平和町は、金沢市の南校外に位置する。宿泊した金沢駅からは、バスで20分ほどだ。途中、必ず犀川大橋を渡る。私は少し早いバスで金沢駅を出て、犀川手前の片町バス停で降りてみることにした。朝の犀川河畔を歩いてみたかったのだ。整理券のあるバスの作法がよくわからず、乗車下車にも一苦労だった。



「北鉄バス・片町バス停」 香林坊の次の停留所

金沢駅前のバスターミナルは、乗り場がわかりやすい。附属校園に行くには、20番台のバスに乗ればよい。この日は、土曜ダイヤで本数が非常に少なく、附小の子どもたちや、参観者で、バスは非常に混んでいた。

「片町バス停」で降りると、すぐ目の前が犀川大橋である。ここから橋を渡って、一つ先の「広小路バス停」で乗り継ごうという計画だ。



「片町側から見た犀川大橋」 永代橋にそっくり



橋の鉄骨にこんな銘板があった。「大正十三年・日本橋梁株式会社・大阪」とある。当時としてはこの橋梁

工事は、結構な大事業だったのだろう。



橋そのものも美しいが、橋からの眺めがまたいい。河畔に立ち並ぶ建物越しに、遠くの山が見える。実に城下町金沢らしい景観だ。(つづく)